

話題がいっぱい！
なかゆくい



10/12 (木) 輝くてだこ市民賞、第34号誕生

輝くてだこ市民賞とは、スポーツ、文化その他の分野で活躍した人に贈る賞です。34人目の受賞者は釘宮美姫子さん。昨年10月22日～24日にかけて開催された「第16回全国障害者スポーツ大会(希望郷いわて大会)」で、フライングディスク競技において金メダルを獲得しました。

出場したのは、「アキュラシー・ディスリート・5」という種目で、5m離れた円形のゴールにディスクを10回投げてその通過数を競います。屋外で行うので、風向きや風の強さを考慮しなければなりません。

聴覚に障がいがある釘宮さんは、手話を使い「風が強かったけれども成功した。優勝しみんなに注目されるのは緊張します」と喜びを表現しました。



10/14 (土) ゆし豆腐づくりで国際交流

うらそえぐすく児童センターでJICA研修員と一緒に体験するゆし豆腐づくりが行われました。昔ながらの製法で作るゆし豆腐は石うすで豆をひくところから始まりました。仲間自治会の人に教えてもらいながら、参加者は明るい表情で力強く石うすを回していました。

ゆし豆腐を煮ている間、みんなでハロウィンじゃんけんやけん玉などゲーム大会を行い、言葉の壁を越えて交流を深めました。

参加した豊里浩之くんは「石うすがけっこう重かったけど上手くできて、ゆし豆腐も美味しかった。JICAの人も優しく楽しかった。」と笑顔いっぱいでした。



10/4 (水) 伝統の獅子舞にみる400年の歴史

旧暦8月15日に合わせ市内各所で五穀豊穡や無病息災を祈る十五夜祭が行われました。

勢理客自治会館で行われた十五夜祭では、400年以上の歴史を誇る、国選択無形民俗文化財の獅子舞が披露されました。そのほか組踊「長者の大主」や棒術、エイサーなど様々な舞台演武が披露され、大人から子どもまで多くの人が集まり会場は大にぎわいでした。

一時、雲が広がり泣き出しそうな空も、十五夜祭中ごろには美しい月が顔をのぞかせて会場を優しく照らしました。



10/10 (火) 全国に先駆けて保育士の人材確保へ

保育士の確保や離職率低減に向け、保育士の働き方改革宣言と保育士『見える化』求人説明・面接会の開催を記者発表しました。

現在の働き方を見直しながら、保育所への就職を希望する人向けに求人説明・面接会を一環として行うこの取り組みは全国初。保育士の業務負担を減らそうと一定のスキルを身につけた保育補助者を雇用することや保育士が働きやすい職場環境を整え、長く働ける職場づくりの実現を目指しています。

浦添市法人保育園連絡協議会の比嘉哲也会長は「浦添で子育てして良かったと言ってもらえるような職場づくりをしたい」と力強く今後の展望を述べました。



9/24 (日) 防災を楽しく体験

参加型のイベントとして親子連れに大人気のファイヤーフェスタが、今年も開催されました。子どもたちだけで250人を超える参加があり、間近で見る大きな消防車に子どもたちは大はしゃぎ。はしご車体験では5メートルほどの高さに上げられ顔をこぼらせる子どもや、放水体験では消防士と一緒に勢よく放水される水で的を倒し、自慢気な顔を見せる子どもたちなど、会場は終始にぎわいました。

放水体験をした子は、満面の笑顔で「ホースが重かったけど、消防士さんが優しく楽しかったです」と話してくれました。



9/30 (土) 「又吉栄喜文庫」開設しました

浦添市出身の芥川賞作家、又吉栄喜さんの寄贈資料を中心とした特別文庫「又吉栄喜文庫」が浦添市立図書館に開設され、その記念式典が行われました。

引き続き開催された又吉栄喜さんと佐藤モニカさん(歌人・小説家)によるトークショー(第3回沖縄学講座)には、多くの又吉文学ファンが詰めかけ、軽妙な語り口によって引き出された又吉文学の世界に聴衆はすっかり魅了されていました。図書館2階の沖縄学研究室では又吉氏の自筆原稿など貴重資料が展示されています。



9/24 (日) 語り継ぐ原爆の記憶

被爆体験の伝承活動を行っている吉田睦子さんによる平和講演会が浦添市役所で開催されました。

吉田さんは被爆者から証言を託された被爆体験や人生について語り、「悲しみや苦しみを乗り越えて、二度とあのような悲惨な出来事を起こしてはならないという人たちの思いを通して、私はこれからも平和の尊さを語り継いでいきたい」と強く訴えました。

講演会の参加者からは「とても痛い思いをして亡くなられた方々のことを考えるととても辛い。現代を生きる私たちが過去の惨禍を語り継いでいかないといけない」と涙ながらに感想を述べました。